

# エムテック、エビ陸上養殖

## 来年度 地産地消、ブランドに 6万尾出荷

【水戸】エムテック（茨城県ひたちなか市、松木徹社長）は、エビの陸上養殖事業に乗り出す。気候変動の影響で水産資源の漁獲量変動中、安定した価格で輸入に頼らないエビを養殖し、地域の飲食店などに販売する。敷地内に量産用の養殖プラントを建設予定で、2024年度内の発売を見込む。既に設けた養殖試験棟と合わせ、投資額は5000万円。25年度に年間6万尾を出荷し、同事業で売上高2000万円を目指す。

エムテックは電子部品や医療機器など丸物部品の精密切削加工が主力。受注量の変動や価格競争のリスクの影響を抑えるため、新たな



陸上養殖システムでシロアシエビを育てる松木社長

な事業の柱を育てる。養殖するエビは「シロアシエビ（バナメイエビ）」で、稚エビを国内から仕入れ育てる。養殖は飼育水を濾過して再利用する閉鎖循環式陸上養殖システムで「ふ化し、自社ブランド

化も視野に入れる。地域の特産品の干し芋の加工残渣をエサにしたシロアシエビを試験的に養殖しており、通常のエサを与えた場合と比較した食味の違いを公設試験研究機関に依頼して検証した。松木社長は「干し芋残渣を与えたエビは甘味の強い傾向が結果に出ている。今後は『はるか海老』というブランドを確立し拡販していきたい」と意気込む。丸物部品の精密切削加工では、クラス1の一般医療機器を扱う「第二種医療機器製造販売業」の許可を持ち、輸出拡大を図る。本業の足元を固めつつ、地産地消型の陸上養殖を新規事業として育て、地域活性化につなげる。